

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 グッドな農業を目指すGAP推進PR事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農産園芸課ぎふ清流GAP推進係

電話番号：058-272-1111(内2868)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,500 千円 (前年度予算額：7,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,500	3,750	0	0	0	0	0	0	3,750
要求額	7,500	3,750	0	0	0	0	0	0	3,750
決定額	7,500	3,750	0	0	0	0	0	0	3,750

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・将来にわたって食料の安定供給を図るために国が「みどりの食料システム戦略」を策定し、持続可能な食料生産の基盤となるGAPの取組みの普及は急務となっている。
- ・令和2年11月に「ぎふ清流GAP評価制度」を発足し、同時に「ぎふ清流GAP推進センター」を設置してGAPを推進している。
- ・農業者と消費者をつなぐ流通・販売業者を「ぎふ清流GAPパートナー」と位置づけ、農業者の応援体制を構築した。
- ・消費者のGAPに対する認知度はまだ低く、パートナーの活動支援により、GAP農産物への消費者理解を深化させる必要がある。

(2) 事業内容

- ① ブランディング戦略の構築 519 千円
「ぎふ清流GAPパートナー」の活動支援によりぎふ清流GAPブランドの位置づけを明確にした販売戦略を構築し、消費者に対する認知度向上を図る。
- ② ぎふ清流GAPの理解を深めるPR活動
アニメーション動画放映による理解向上や、有機農業の取組みの宣伝表示に使用するロゴマークを作成する等のPR活動を行う。
- ③ ぎふ清流GAPパートナーによるフェア開催
量販店、飲食店等において、期間限定フェアを開催し、SNS等による宣伝と併せて、消費者へぎふ清流GAP農産物、料理の一斉プロモーションを展開する。
- ④ ぎふ清流GAP評価制度広報宣伝
認証農家、パートナーによるぎふ清流GAPの取組みを広告媒体を活用して広報宣伝する。

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1/2 (地方創生交付金)、県: 1/2

(4) 類似事業の有無

グッドな農業を目指すGAP推進PR事業費補助金【農産園芸課】

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	35	業務旅費
需用費	272	モニター等消耗品費、印刷製本費
役員費	1,040	ロゴマーク商標登録出願費用、通信運搬費
委託料	6,034	販売促進、食材供給網のモデル構築等
使用料及び賃借料	119	会議室使用料
合計	7,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略(施策編)
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信
 - ④「ぎふブランド」づくり
- ぎふ農業・農村基本計画
 - (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり
 - ②安心と信頼を届ける農畜水産物の生産展開

(2) 国・他県の状況

- ・国令和12年度目標: ほぼ全ての国内産地で国際水準のGAPを実施
- ・国策定の「みどりの食料システム戦略」の具体的な取組みにおいて、本事業の主旨に沿った「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」及び「労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大」が位置づけ。

(3) 後年度の財政負担

- ・ぎふ農業・農村基本計画にGAP位置づけがある令和7年度までは継続が必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・GAPは農業者、消費者にもメリットがあるため、支援を行うことで、県内生産者へGAPが普及・定着する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

消費者等へのぎふ清流GAP農産物のPR、販売促進を図り、ぎふ清流GAPの認知度を令和7年度までに25%に増加させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度 目標	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①消費者のぎふ清流GAP認知度	-	10%	13%	17%	25%	

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ぎふ清流GAP評価制度の運用を開始。 評価機関として「ぎふ清流GAP推進センター」を設置。
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>県民の「食の安全・安心」や環境保全への関心が高まり、また持続可能な農業の実現には、農業現場におけるGAPの普及は重要であり、その取り組みの消費者等へのPRは必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>ぎふ清流GAP評価制度の運用初期に将来を見据えた販売戦略、ブランド化を計画、実行することは有効性が高い。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>ぎふ清流GAPパートナーの企画会議を開催し、流通業者や認証者等の意見を事業に反映させることで、効果的なPRが可能となり、効率性が高い。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 ぎふ清流GAPの認証者がまだ少なく農産物の供給量も少ないため、農産物の安定供給、供給のコストに課題がある。。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 他事業で行う農業者へのGAPの取り組みの推進と、当事業で行う消費者、流通業者等の認知度を高め、GAP農産物の需要を増やす取り組みを両輪で行うことで相乗効果を期待できる。</p>

(他事業と組み合わせる場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>グッドな農業を目指すGAP推進事業費補助金 【農産園芸課】</p>
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	<p>認証ロゴマークの利用を促進する補助事業と組み合わせることで、効果的なPRが可能となる。</p>